

さくら通信

平成 25 年 3 月 10 日

No 31



発行者：NPO 法人 下関深坂さくら友の会
住 所：下関市安岡町 1-8-3
TEL:083-258-0143 FAX:083-258-5910
Eメール：misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp
HP：<http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura>



2月4日 新聞発送

いつもの光景。この日はご都合の悪い方、遅れる方、早く帰らねばならない方があつて、少し参加者が少なかったが、それでも 9 名が集まつた。

2月3日移植準備

寒い朝だが空は快晴。下川畑のさくらの苗木を掘り起こして、根周りを菰（こも）で包むという移植の準備作業を行つた。苗木の数は五十本。維持管理部会のメンバーを中心に 10 名が集まつた。いつもの通り、準備体操をして作業開始。

2月11日桜移植

3日に準備した苗木を、深坂茶屋の駐車場上に移植。そこで、井藤さんがなくなられた。

井藤さんを偲んで

2月11日に維持管理部会で桜の植樹作業中、午前9時30分に突然帰らぬ人となりました。

地盤の硬い所を一生懸命スコップで 2 ~ 3 回位掘られ、「フゥー」と息をつかれそのまま



ま倒れられました。足でも滑らせ、笑いながら立たれるのかなと思っていたのですが、そのまま身動きされず、近くに寄ると息もされていない状態でした。すぐに 119 番に通報し救急車が来るまで皆で蘇生処置を懸命にし続けました。救急車の到着後、救命士の方も蘇生処置を続けながら市民病院に行きましたが、息を吹き返すこともなく旅立たれました。

井藤さんは“さくら友の会”的維持管理部会の当初からのメンバーで、物腰も柔らかくとても紳士的な方でした。

特に管理の部分では、全体の中でも一番荒れた「もみじ谷」ブロックの責任者で、現地調査のため何度も何度も足を運ばれていました。そして他のブロックの参考になるような現地地図作成に大変な貢献をして頂きました。

また、暇を見つけては、奥様と深坂を散策され「もみじ谷」にも行かれ、一本一本の名前と場所を暗記されていたようです。

深坂を愛し、桜を愛し、思いやりのある方でした。

倒された場所からほんの 5 メートル位の所に、「井藤盛治」さんのご自分の桜の木がありました………
心よりご冥福をお祈りいたします。

合掌 江原 寛治



3月3日庄司さんが亡くなられた。家で、突然ふらつと、一緒に仕事をされていたご子息にもたれかかってなくなられたとの事。心臓に持病があられた由。

庄司さんは、気取らず、誠実で、実に優しく、誰からも愛されていた。電気関係の器具や工事のお仕事をされていたので、

さくら友の会は工具類を、よく庄司さんのお店に注文していた。庄司さんは、無償で工具を研いだり、手入れして下さった。さくらえのときには、何時も自家発電機と軽トラックを無償で提供いただいていた。響灘ライオンズクラブのメンバーでもあったので、その関係の友人は多いが、その他のメンバーにも別け隔てなく接して居られて、誰の胸にも、穏やかで、温かな、明るい思い出を残して行かれたと思う。

この時期に、二人も良い友が旅発って行かれた。

やがて誰もが辿る道ならば、この季節、このようにというのが羨ましい。口に出しては言わぬが、誰にもその思いはあるようだ。

ねがわくば花のもとにて春死なん

このきさらぎの望月の頃

(西行法師)

急に二人も身近な人たちを失うと、死が急に近くなったように感じる。

なんとなく、吉田松陰の言葉が思い浮かんだ。

「17、18 の死が惜しければ、30 の死も惜しい。80、90、100 になってもこれで足りたということはない。半年と云う虫たちの命が短いとは思わないし、松や柏のように数百年の命が長いとも思わない。天地の悠久に比べれば、松柏も一時蠅なり。」

我々も遅かれ早かれ散りゆく身。静かに天寿を全うするのみという心境ではあるが、松陰はこんなことも言っている。「悔いるよりも、今日直ちに決意して、仕事を始め技術をためすべきである。何も着手に年齢の早い晩いは問題にならない。」

良い言葉ではないか。何時倒れても良い、マイペースで楽しく歩もうと思う。

野口周三

次回予定（第3回定例会）

日時：4月7日 9時～ 深坂さくらえ（さくら祭り）
場所：深坂自然の森 森の家
日時：4月11～13日 さくら友の会研修旅行
日時：5月12日 9時 総会・定例会
場所：深坂自然の森 森の家